

## 東京医科歯科大学医学部医学科・一橋大学大学院連携ワークショップ 講師紹介

### 演題: 日本の医療制度に必要とされるジェネラリストとは？

講師: 井伊雅子(一橋大学 国際・公共政策大学院 教授)

1986年、国際基督教大学教養学部卒業。1993年、米国ウィスコンシン州立大学マディソン校経済学部博士課程修了(Ph.D in Economics)。世界銀行調査局研究員、横浜国立大学助教授を経て、2004年より一橋大学教授。2010年より東京大学公共政策大学院医療政策ユニット特任教授を併任。神戸大学医学部客員教授、東京医科歯科大学医学部倫理委員会委員を務める。

日本の医療制度の弱点の一つであるプライマリ・ケア制度を整備することが、超高齢化を向かえる日本に必要な医療制度改革です。その時に要の役割をするのが、ジェネラリストまたは家庭医と言われる医師です。家庭医は在宅を始め、地域の医療を担っています。なぜ家庭医制度が日本に根付かなかったのか、今後どのようにして日本の医療制度に導入をして行くのか、お話ししたいと思います。

### 演題: 地域包括ケアにおける家庭医の専門性

講師: 葛西龍樹(福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座 主任教授)

1984年、北海道大学医学部卒業。1992年、カナダ家庭医療学会認定専門医課程修了(British Columbia 大学)。1996年、北海道家庭医療学センターを設立、初代所長。2006年から現職。医学博士。英国医学雑誌 British Medical Journal、英国家庭医学会雑誌 British Journal of General Practice、世界家庭医機構アジア太平洋地域学会雑誌 Asia Pacific Family Medicine 各誌の編集委員、オーストラリア Bond 大学医学健康科学部名誉客員教授を務める。英国家庭医学会名誉正会員専門医(MRCGP)。世界の家庭医療ネットワークを駆使して世界標準の家庭医養成プログラムを日本において構築してきた経験から、家庭医療を専門としてローカルにもグローバルにも活躍することの喜びについて語ります。

### 演題: 世界の家庭医療の現状と日本の若手医師・学生への期待

講師: Chris van Weel(オランダ Radboud 大学 Nijmegen 医療センター Primary and Community Care 講座主任教授)

1973年からオランダ Rotterdam で家庭医療を実践した後、1985年から現職。家庭医療学分野の国際学会 WONCA(World Organization of Family Doctors 世界家庭医機構)の前会長(2007-2010)を務めた。家庭医療の特にアカデミックな地位を築くために多大な貢献をしており、国際医学雑誌への研究論文発表は700編を超え、50人以上の PhD 博士論文を指導してきた。Lancet の編集委員や世界の多くの大学で客員教授も務める。世界の家庭医療の現状を熟知する真にグローバルな視点から、家庭医療の価値観・専門性、地域医療における家庭医の役割、家庭医療を含むプライマリ・ケアのシステムを構築していくことの重要性について、日本で家庭医療に興味を持つ若手医師・学生のみならずへの熱いメッセージを込めてお話しいただきます。